

科目名・単位数		素描(2年)		(2)単位	学習レベル	標準
学習目標 ① 対象を描写することにとどまらず、対象を深く見詰め観察する能力を養う。 ② 様々な描画材の種類や違いを理解し、その持ち味や特性を生かして表現する。 ③ 他者の視点やよさ、美しさを感じることができる感性を高め、美やよりよい精神を求めて生きる態度を養う。						
学期	学習内容	学習のねらい	提出物			
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション ～素描Ⅱの内容・評価について～	・素描Ⅱで取り組む内容について生徒作品や図録を使い説明する。	・プリント			
	5月 基本立体のデッサン ～直方体の人工物～	・比較的捉えやすく表現しやすい『テッシュの箱』をデッサンする。紙の質感や箱の高さ幅、奥行きに注意し対象を良く観察して描く。	・ワークシート ・作品			
	～円柱の人工物～	・比較的捉えやすく表現しやすい『空き缶』をデッサンする。金属の質感や形、高さ幅、奥行きに注意し対象を良く観察して描く。	・ワークシート ・作品			
	6月 ～人工物を組み合わせて描く～	・円柱の人工物と直方体の人工物を組み合わせて形態や空間、質感を表現する。	・作品			
	7月 ～人工物と自然物を組み合わせて描く～	・人工物と自然物を組み合わせて形態や空間、質感を表現する。	・作品			
9月 ～写真を見て描く～	・有名人の顔や風景などの写真を模写し明暗で表現する。	・作品				
後期 (10月～3月)	10月 ～着彩写生～	・花や瓶などを組み合わせてデッサンし、水彩による着彩表現を行う。	・作品			
	11月 ～石膏デッサン①～	・首像を頭部は球、首は円柱で置き換えて大きな構造で捉えて表現する。	・作品			
	12月 ～石膏デッサン②～	・目、鼻、口は立体の中での凹凸であることに気づかせ、形の狂いに注意して正確にとらえる。 ・面、量、動きを捉え、明暗の調子やタッチの方向、線の強弱を考えて描く。	・作品 ・作品			
	1月 ～石膏デッサン③～	・細部にとらわれず大まかに形を取り、石膏像の白さが表せるように明暗をつけて描く。	・作品			
	2月 ～人物デッサン～	・大胆なタッチで骨格を把握しながら描く。明暗のバランスに気をつけて表現する。	・作品			
3月 鑑賞 ～作品展覧会～	・デッサンの表現技法や方法について学び、他者の作品のよさや美しさを味わう。 ・完成した作品を展示し鑑賞する。	・レポート ・プリント				
評価の観点と方法 ① 対象を描写することにとどまらず、対象を深く見詰め観察することができる。 ② 様々な描画材の種類や違いを理解し、その持ち味や特性を生かして表現することができる。 ③ 他者の視点やよさ、美しさを感じることができる感性を高め、美やよりよい精神を求めることができる。						
方法 アイディアスケッチ、プリント、ワークシート、作品、授業の様子等を総合的に判断して行う。						
使用教科書・副読本					実習費	1,500 円
教材・道具等 カルトン、鉛筆(6B～6H)、練りゴム、木炭、ガーゼ、芯抜き、フィキサチーフ、ケント紙、木炭紙、等						